

多様な子どもたちが 仲間とつながり共に楽しむ園生活

～一人一人が安心し、自己発揮して遊ぶ

環境の工夫～

系満市立真壁こども園

呉我 恵



テーマ設定理由

都市化

情報化

国際化

核家族化

災害

少子化

緊急事態宣言



子どもたちを取り巻く環境は変化している

一人遊びが好き

集団遊びが苦手

思いや考えが上手く
伝えられない



〇月〇日

Aさんがいつも
と違って一人で
いる。
理由をなかなか
話してくれない



気のあう友だち
が休んでいる？
前週の遊びは？

保育教諭同士の情報共有

自己発揮
好きな遊びを
主体的に楽しむ



環境
の
工夫



互いを認め合う
楽しさを共有

仲間が
つながる



多様な子どもたちが、 仲間とつながり共に楽しむ園生活

～一人一人が安心し、自己発揮して遊ぶ

環境の工夫～



Ⅰ「仲間とつながる」過程に大切なこと

P2

(Ⅰ) インクルーシブ保育と幼児教育・保育

要領・解説

インクルーシブ保育

こども基本法 (基本理念)

園児一人一人を
かけがえのない
存在として

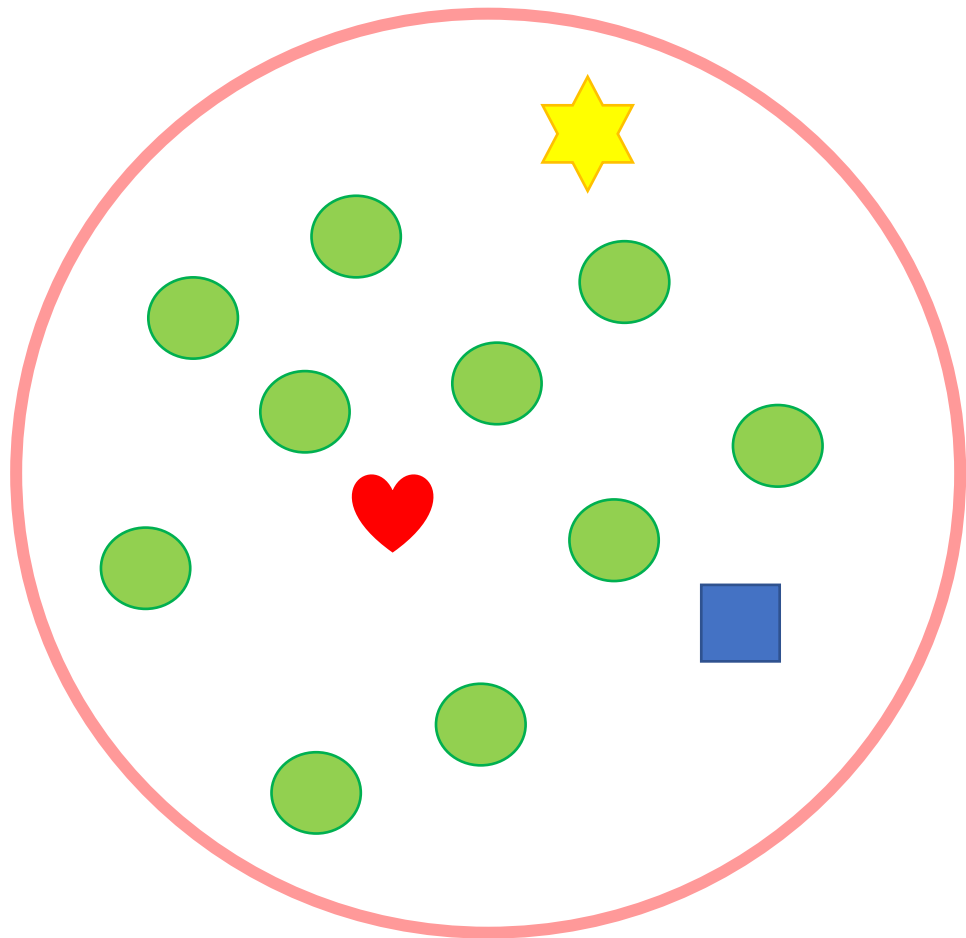
すべてのこどもが特
別で異なる
(多様性の尊重)

個人として
尊重されること

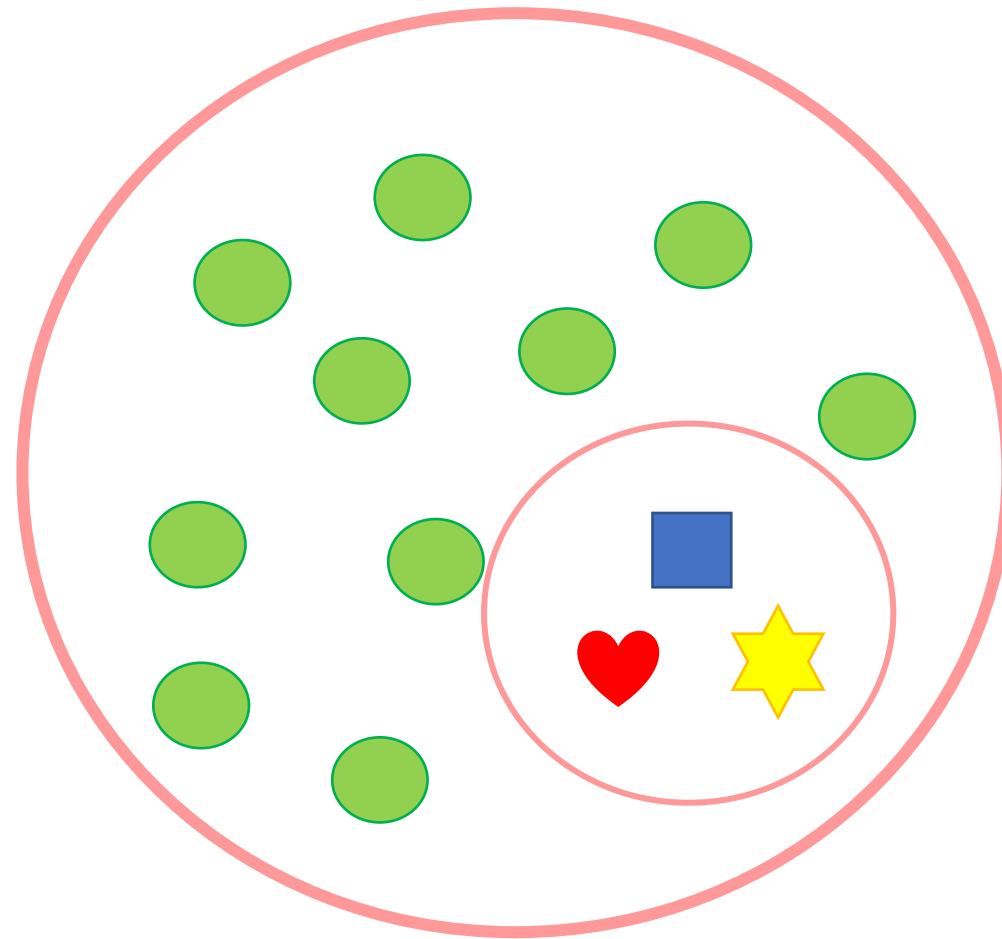
園児一人一人
の発達の特性を
生かした集団

どの子も
保育の活動に
参加している

自己に直接関係する
全ての事項に関して
意見を表明する機会



インクルーシブ保育



統合保育

みんなにやさしいインクルーシブ保育 を基に作成

幼保連携型認定こども園教育・保育要領 解説

どのようなことに興味や関心をもってきたか

興味や関心をもったものに向かって自分のもてる力をどのように発揮してきたか

友達との関係はどのように変化してきたか



園児一人一人の
発達の実績を理解

(2) 仲間とつながり共に育ち合う

幼保連携型認定こども園教育・保育要領
第3章 ねらい及び内容 人間関係3内容の取り扱い

(2) **一人一人を生かした集団**を形成しながら人と関わる力を育てていくようにすること。その際、集団の生活の中で、園児が自己を発揮し、保育教諭等や他の園児に認められる体験をし、自分のよさや特徴に気付き、自信をもって行動できるようにすること。

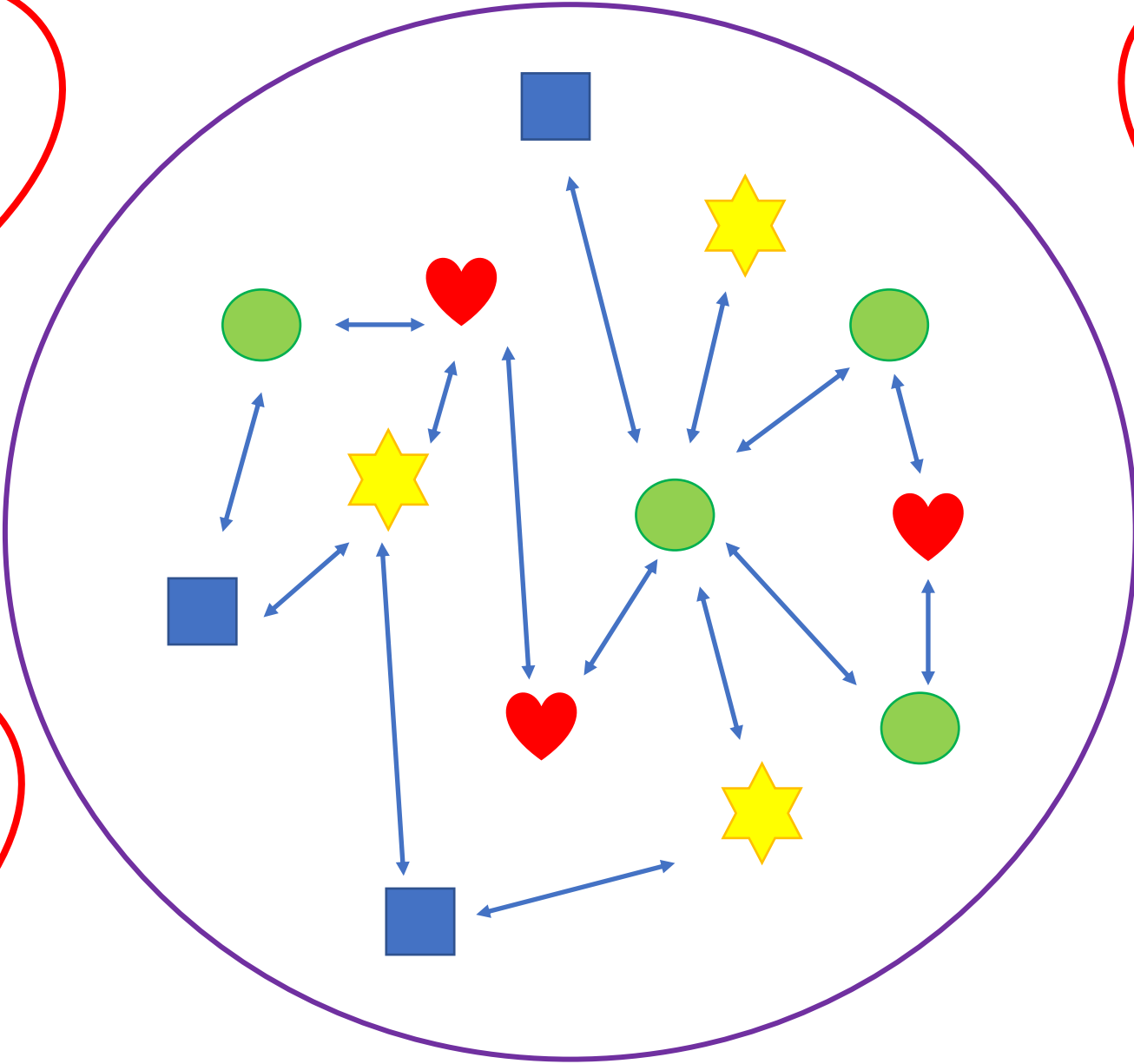
幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説

何してるの？
楽しそう！

このような育ち合いがなされるためには、その集団が
園児一人一人にとって安心して十分に自
己を発揮できる場になっていなければならない。

かけがえの
ない一人

みんな
違って
いい



温かい
集団

互いに
育ち合う

はじめの100か月の育ちビジョン

幼児期までのこどもの育ちの5つのビジョン

子どもの
権利と
尊厳を守る

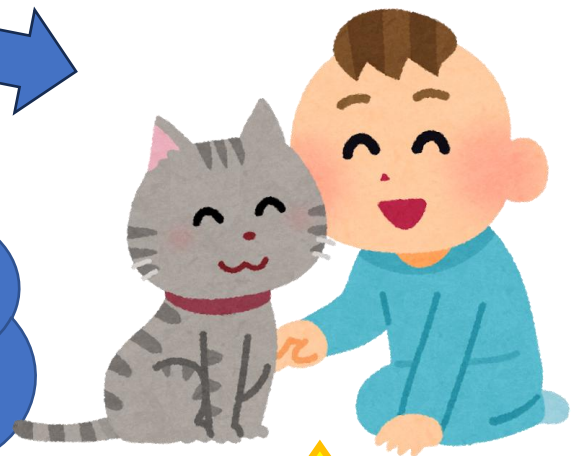
「安心と挑戦の循環」を
通してこどもの
ウェルビーイングを高める



外に出る



何かな？
やってみ
たいな



挑戦

元にもどる



(2) 保育教諭等の協働～チーム保育～

園児が心を寄せる環境構成 (内閣府 文部科学省 厚生労働省 発行)

複数の保育教諭が園児一人一人や教育及び保育の一つの場面について話し合いを行うことにより、保育教諭等の自身の振り返りでは気づかなかった園児の気持ちや行動の意味を理解することが可能となり、それが教育及び保育の質の向上につながっていく

3 子ども理解を軸にした環境づくり

(2) 子ども理解

幼児理解に基づいた評価(文部科学省 発行)

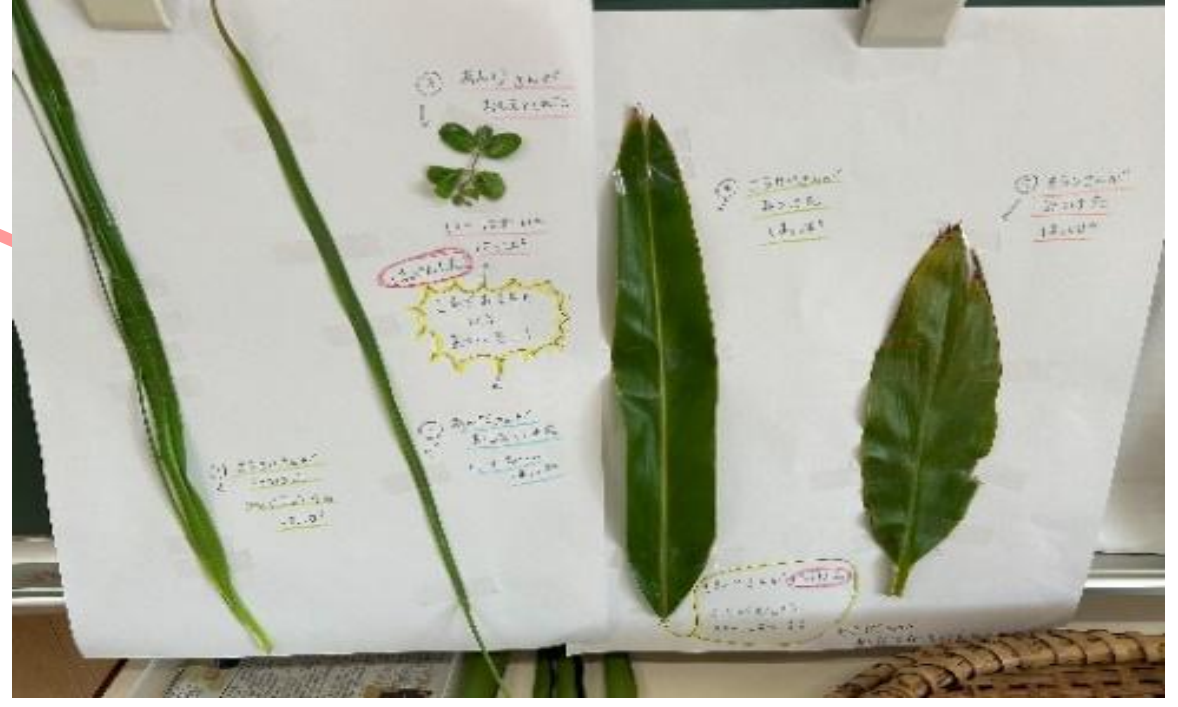
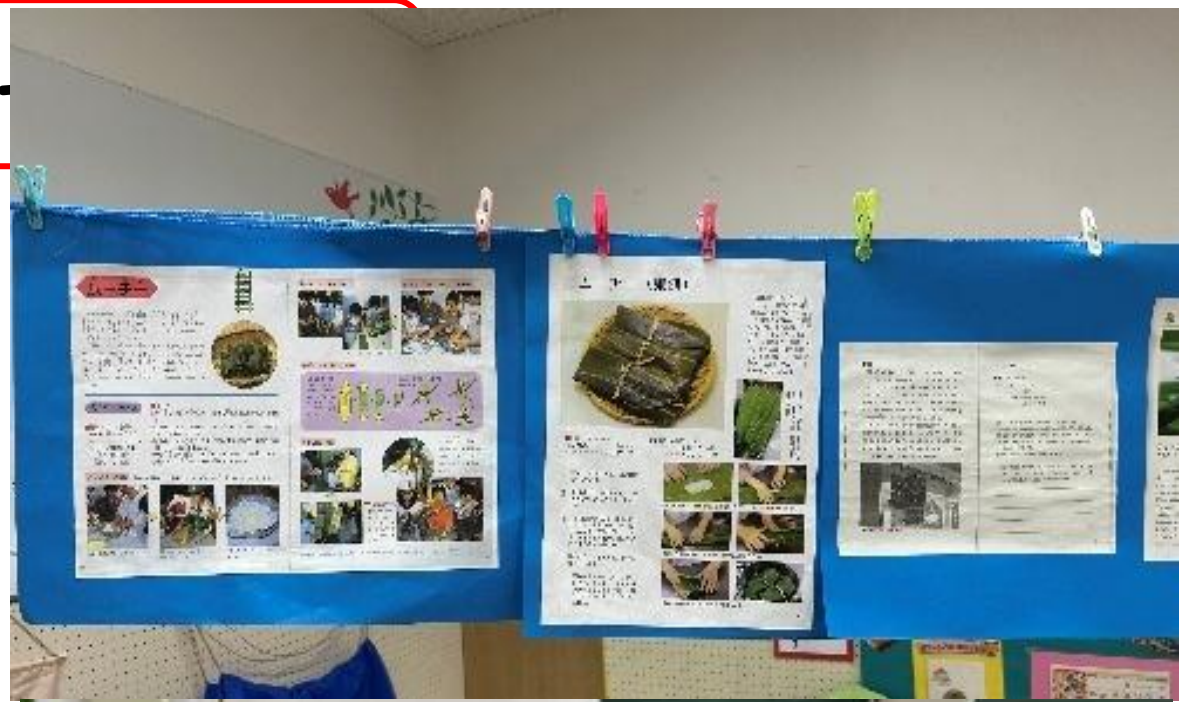
幼児を理解するとは一人一人の幼児と直接に触れ合いながら、幼児の言動や表情から、思いや考えを受け止め、**その幼児のよさや可能性を理解**しようとする事

(3) SOAPの視点

	SOAPの視点	本研究での主な視点	
【S】 幼児の姿 (主観的 データ)	<ul style="list-style-type: none"> ・だれとだれが、どこで、何をして遊んだか ・どのような人間関係が見られたか ・環境とどう関わっていたか ・どのような道具を使っていたか 	<ul style="list-style-type: none"> ○お気に入りの場所や、気の合う友達はあるか ○友だちと、関わって遊ぶ姿はみられたか ○お互いに思いや考えを伝えあっているか ○自分から好きな遊びをみつけ楽しんでいるか ○試行錯誤して遊ぶ姿はみられたか 	幼児理解
【O】 読み取り (客観的 データ)	<ul style="list-style-type: none"> ・どこに面白さを感じていたか ・どのような経験をしていたか ・何が育っていると考えられるか <p>「遊び課題」と「人間関係」の2つの面をみる</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○保育教諭との信頼関係はどうか ○友だち同士で互いを認め合っているか ○遊びが充実するような環境となっているか ○イメージを共有して遊ぶ楽しさは味わえているか 	
【A】 願い (アセスメ ント評価)	<ul style="list-style-type: none"> ・どのような成長につながりそうか ・次はどのような経験が必要になるか 		理解に基づいた援助
【P】 (計画)	<ul style="list-style-type: none"> ・次の成長を促すためにはどのような環境や活動が必要か ・どのような援助が必要か 	<ul style="list-style-type: none"> ○明日につながる環境 	

「SOAP」の視点 これからの幼児教育を基に作成

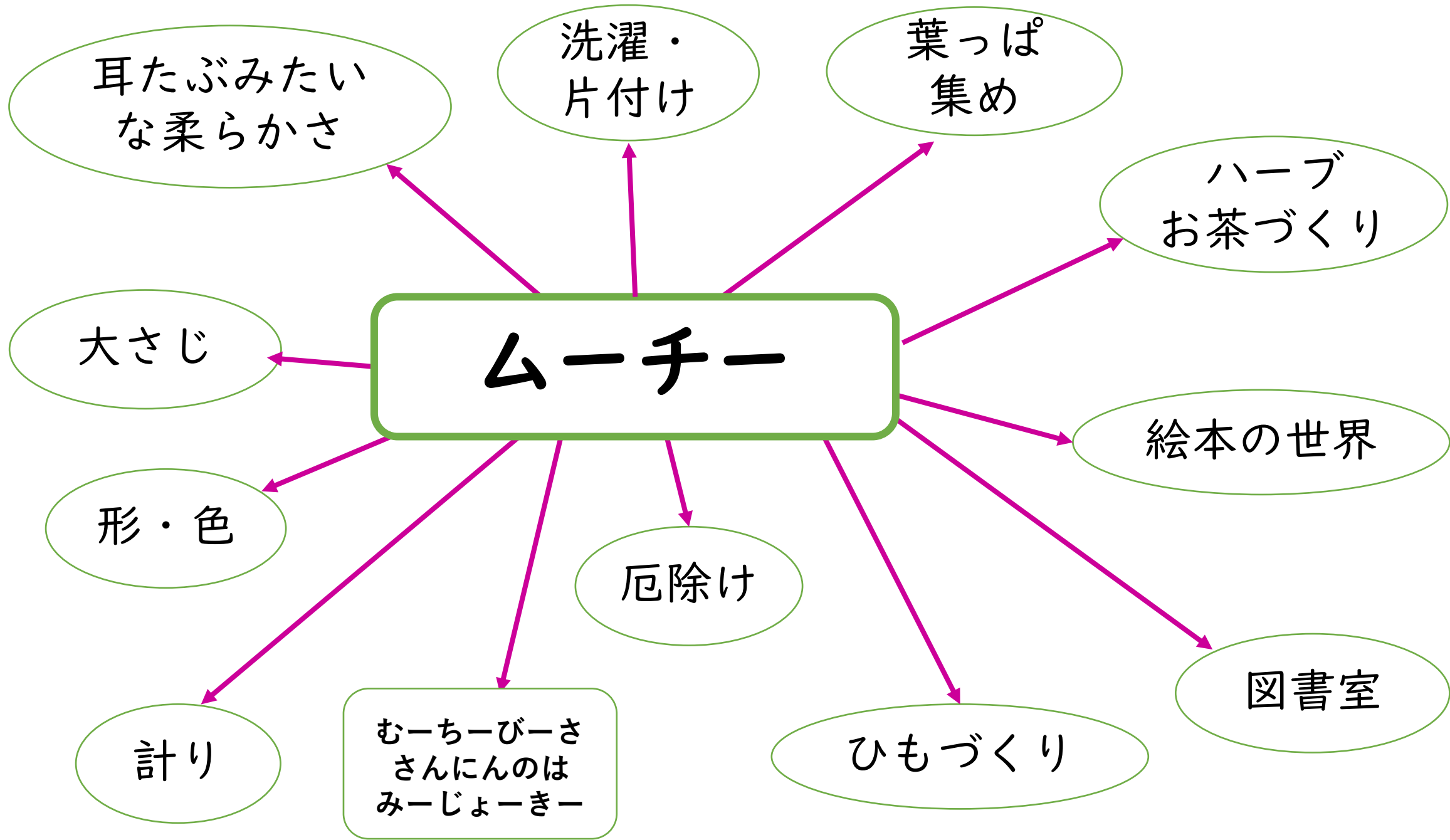
(4)





どうやったらおい
しくなるかな？

虹色のむーちーも
たべてみたい



でも、真壁の
鬼は先生だから
おいても
くるんじゃない

鬼はこわい！



あの鬼じゃ
ないよ。
本物のだよ

真壁に鬼が
こないように石を
入れたムーチーを
かざろう



いっきにいっぱい
食べないと（絵本み
たいに）あがー
（鬼が痛がる）
ってならない



考察

- ・自然に仲間とつながり遊びを楽しむ姿がみられた。
- ・自分なりに考える力の育ちや互いを認め合える仲間関係
- ・みんなで決める、相談する姿。

- (1) 日々の記録をSOAPの視点で重ねたことで子ども理解が深まり多様な子どもたちが仲間とどうつながっているかを見ることができた。
- (2) 安心感は保育教諭や職員の子どもを大事にする姿勢や園の雰囲気など、園全体でつくられると改めて感じた。
- (3) いつもと違った雰囲気の中でも様々な自己発揮の姿を見ることができた。この姿から、本園が子どもたちにとって安心できる場となっていると考察した。

今後の課題

- (1) 職員間で連携し、共通理解する方法を探る
- (2) 子ども理解を深めて環境を工夫するために
自分のクラスや園にあった記録方法を活用し
ていく保育を振り返る